

令和3年度業務実績に関する評価（案）の概要

1 業務実績（税込）

（単位：百万円）

区 分	R2年度（実績）A	R3年度（実績）B	B－A
経常収益	48,016	50,464	2,448
医業収益	38,077	40,746	2,669
経常費用	47,310	49,116	1,806
医業費用	46,315	48,120	1,805
経常収支	706	1,348	642
経常収支比率	101.5%	102.7%	1.2
当期純損益	540	1,174	634

2 業務実績全体にかかる総合的な評定（要旨）

医 療 面	・ 県立病院としての使命を引き続き担い、総合病院でのダ・ヴィンチ手術の使用術者数の増加や、県内初のダ・ヴィンチを使用した保険診療における腹腔鏡下腓体尾部切除術、こども病院での成人期医療への移行促進など、<u>医療の質の更なる向上とそのための体制づくりへの努力が引き続き認められる</u> ・ また、新型コロナウイルスの感染拡大への対応に当たっては、専用病床の確保や患者の受入れなど、<u>県内の医療提供体制の確保に貢献している</u>
経 営 面	新型コロナウイルス感染症の影響からの回復傾向が見られ、令和2年度に比べ、患者数の増加等により医業収益が増加し、令和2年度に引き続き新型コロナウイルス感染症関連の補助金等が交付されたこともあり、<u>経常収支においては法人設立後13年連続で黒字決算を達成</u>
総 合 的 評 定	新型コロナウイルス感染症の影響を受けつつも、<u>医療面・経営面の双方で、中期目標の達成に向けての努力と着実な進展がみられる</u>

3 機構の業務実績・自己評価

（1）機構自己評価（機構が行動計画として設定した全119項目）

区 分	暫定評価	本評価	暫定評価からの変更項目
S：計画に対し十分に取り組み、顕著な成果が得られている	8	10	<A→S> 【34】ダ・ヴィンチ手術（総）
A：計画に対し十分に取り組み、成果が得られている	89	90	<未→S> 【8】患者満足度 <A→B> 【61】医師数
B：計画に対し、十分に取り組んでいる	18	17	<B→A> 【51】心臓カテーテル治療（子） 【60】病床稼働率（子） 【65】海外研修
C：計画に対する取組みは十分でない	0	0	<未→B> 【108】業務改善推進運動
未評価（※暫定評価時データ集計中）	4	0	
評価対象外	—	2	【55】救急関係研修会（子）、【97】県民向けイベント（総、子）
計	119	119	

(2) 令和3年度数値目標の達成状況（機構が中期計画・令和3年度計画において指標設定）

区 分	暫定評価	本評価	暫定評価からの変更項目
目標達成	13	15	
目標未達成	11	11	【10・11】紹介率・逆紹介率(心、子) 【25・40・50】入院患者数(3病院)・外来患者数(総、心) 【36】手術件数(総) 【39・49】病床稼働率(総、心) 【61】医師数(総、心)、【96】公開講座数 【108】業務改善運動推進制度実績件数
未評価	2	0	
計	26	26	

4 県評価（全119項目のうち、県が数値目標項目など69項目を「重点項目」として設定）

区 分	暫定評価	本評価	暫定評価からの変更項目
☆：良好で特に着目する状況	8	10	<○→☆> 【34】ダ・ヴィンチ手術(総)
○：良好な状況	54	55	<未→☆> 【8】患者満足度
△：より一層の取組を期待	5	4	<△→○> 【60】病床稼働率(子)
▼：取組改善を強く要望	0	0	<未→○> 【108】業務改善運動推進制度実績件数
未評価	2	0	
計	69	69	

5 実施状況の調査・分析

(1) 項目別要旨

県民に対して提供するサービスの他の業務の質の向上	医療の提供	総合病院でのダ・ヴィンチ手術の使用術者数の増加や、県内初のダ・ヴィンチを使用した保険診療における腹腔鏡下腓体尾部切除術、こども病院での成人期医療への移行促進など、 <u>医療の質の更なる向上が図られている</u>
	医療従事者の確保及び質の向上	総合病院のメディカルスキルアップセンターにおいて現場に即した実践的な研修が提供されているほか、各病院における院内施設の充実や、新型コロナウイルス感染症等への対応に当たり、精神科医による医師・看護師等へのこころのケアに務めるなど、 <u>就労環境の向上に取り組んでいる</u>
	医療に関する調査及び研究	総合病院のリサーチサポートセンターにおける研究や、総合病院のNTTコミュニケーション科学基礎研究所との共同研究に関する協定締結など、意欲ある医師への研究や学術交流の機会の提供により、 <u>本県医療水準の向上に寄与している</u>
	医療に関する地域への支援	県内医療機関への医師派遣等により地域医療提供体制維持に貢献したほか、地域の医療従事者の養成や県立病院としての社会的役割に応じた取組が行われており、高度・専門医療の技術や知見が積極的に <u>地域に共有・還元されている</u>
	災害等における医療救護	新型コロナウイルス感染症対応のためのDMAT派遣や、熱海市土石流災害被災地域へのDMAT、DPAT派遣など、 <u>災害対応の基幹的役割を果たしている</u>

業務運営の改善及び効率化	薬品・診療材料の適正な調達・在庫管理や業務改善運動の推進等、 <u>業務運営の効率化に継続して取り組んでいる</u>
財務内容の改善に関する事項	経常収支において、約 13.5 億円の黒字を確保し、 <u>地方独立行政法人化後、13 年連続で経常収支比率 100%以上を達成した</u>

(2) 項目別業務実績評価抜粋（県評価のうち☆及び△の項目を抽出）

※下線部は暫定評価からの修正・追加事項

No.	内 容	県評価 機構評価	県評価
5	チーム医療の推進	☆	・総合病院の院内感染対策チームによる、<u>新型コロナウイルス患者の受入れ対応により県内医療提供体制の確保に貢献</u> ・各病院における院内感染対策の徹底
		S	
6	医療安全対策の充実	☆	
		S	
8	<u>患者満足度の向上</u>	☆	<u>・患者満足度は3病院とも目標値を大幅に上回る</u>
		S	
15	感染症医療の取組	☆	【新型コロナウイルス感染症への対策】 ・3病院における病床の確保により、<u>県内医療提供体制確保に貢献</u> (総合 24 床、こころ 4 床、こども 4 床) ※R4.3 月時点 【結核への対策】 ・総合病院においては県内最大規模の<u>結核病床（50 床）を維持し、県全体の結核対策に貢献</u>
		S	
19	遺伝子診療の充実 (総合)	☆	・遺伝診療科受診者数は増加傾向 (H30 101 人→R 元 146 人→R2 227 人→R3 233 人) ・<u>エキスパートパネルの実施件数の増加</u> (R2 38 人→R3 46 人) ・<u>遺伝カウンセリング件数の増加</u> (R2 227 人→R3 233 人)
		S	
23	移行期医療の促進	☆	・こども病院の移行期医療支援センターにおける<u>移行期医療支援体制の拡充に向けた取組</u> ・<u>こども病院から総合病院への移行期医療件数の増加</u> (R2 995 人→R3 1,367 人)
		S	

No.	内 容	県評価	県評価
		機構評価	
34	ロボット支援手術の活用（総合）	☆	・ <u>ダ・ヴィンチ使用手術件数の増加</u> (R2 243 件→R3 261 件) ・ <u>ダ・ヴィンチ使用術者数の増加</u> (R2 16 人→R3 23 人) ・ <u>県内初のダ・ヴィンチを使用した保険診療による腹腔鏡下腓体尾部切除術の実施</u> (R4. 3)
		S	
53	小児がん拠点病院としての取組（こども）	☆	・ 北 5 病棟内の個室 4 室及び廊下も含めた範囲のクリーン度アップや学習スペースの整備による療養環境の向上
		S	
77	リサーチサポートセンターにおける研究体制	☆	・ リサーチサポートセンターにおける研究の実施による、社会健康医学研究推進への貢献 ・ N T T コミュニケーション科学基礎研究所と共同研究に関する協定締結による難聴支援への更なる期待
		S	
104	人事評価制度の実施	☆	・ 公平公正な人事評価制度の導入 ・ 職員の意欲向上につながることを期待
		S	
17	リハビリテーション活動の充実（こころ）	△	・ リハビリテーション件数は減少傾向 (R 元 8, 945 件→R2 8, 080 件→R3 5, 949 件) ・ 新型コロナウイルス感染症対策として、動画配信やリモートによるデイケアプログラムの実施 ・ デイケアの新規利用者増加に向けた取組を期待
		B	
39 49	病床稼働率（総合・こころ）	△	・ 新型コロナウイルスの影響により、病床稼働率は中期目標で示した目標値未達成であるため、今後の取組に期待 総合 目標値 90%→<u>実績 88. 2%</u> こころ 目標値 85%→<u>実績 78. 5%</u>
		B	
67	ラーニングセンターの活用（こども）	△	・ 本館リニューアル工事等により、ラーニングセンターの使用を休止 ・ 施設改修計画と整合を図りつつも、院内研修のセンター集約による研修環境の改善について、引き続き検討を要望
		B	